



2016 平和の 願いを こめて

— 今、語り継ぐ 戦争の体験 —
港区戦争・戦災体験集 第3集



2016 平和の願いをこめて

— 今、語り継ぐ 戦争の体験 —
港区戦争・戦災体験集 第3集



みなと く へい わ と し せんげん
港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和
を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わるこ
とはありません。

私達も真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、
生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生
まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持すること
を求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、
心から平和の願いをこめて港区が平和都市であること
を宣言します。

しょうわ ねん がつ にち
昭和60年8月15日

みなと く
港区

港区戦争・戦災体験集（第3集）の発行にあたって

港区は、戦後40年にあたる昭和60年8月15日に、広く核兵器の廃絶を訴えるとともに心から平和の願いをこめて「港区平和都市宣言」を行いました。

それから30年、そして戦後70年が経過しました。現代を生きる人々のほとんどは戦争を体験していない中、自身の戦争体験を語り継ぐことができる人もとて少なくなっています。そのため、私たちには、戦争の記憶を風化させることなく次の世代に語り継ぎ、平和への意識を醸成していく大切な務めがあります。

港区では、平成27年度に「港区平和都市宣言30周年」の節目の年として、区内の大学生の企画・運営による記念イベントをはじめとしたさまざまな記念事業に取り組み、平和啓発を行いました。また、戦争・戦災の記憶を形に残しさまざまな場面での啓発に役立てるため、本書の作成とともに、戦争体験談インタビューの様子を映像記録として収録したDVDも作成しました。

本書は、平成3年、平成19年に引き続き、手記及びインタビューによる聴き取りをまとめた戦争体験集の「第3集」にあたります。「第2集」の発行からさらに10年近くの歳月が経過し、体験者の方は減少し高齢化も進んでいるため、今回は「次の世代へ語り継ぐための読みやすい冊子」という視点で編集にあたりました。インタビューは、当時「若い世代」として戦争を体験した方々から、今の「若い世代」がお話を聴くという方法を採用しました。区内の高校生・大学生が実際に話を聴いた中で感じた疑問や思いをそのまま言葉にすることで、若い世代の方にも親しみやすく、共感できる内容となるよう努めました。手記においても、お寄せいただいた方一人ひとりに御協力いただきながら、難しい表現には注釈を加えたり現代の言葉に直したりなど、工夫しました。

今回、体験談をお寄せいただいた皆様は全員、戦争の時代を「生き抜いた」方々です。耐え

がたい戦争体験をして亡くなられてしまった方々も、数えきれないほどいらつしやいます。私たちは、今、聴くことができる貴重な声に耳を傾け、当時を生きた方々のさまざまな気持ちに思いを巡らせるとともに、事実を学び、一人ひとり自ら考えることが大切なのではないでしょうか。

この体験集が多くの人に読まれ、そして語り継がれ、平和のために自分に何ができるのか考えていただくきっかけとなることを、願ってやみません。

戦争の記憶を思い返して他人に伝えるということは、多くの体験者にとつてとてもつらいことです。本書の発行にあたり、インタビューに御協力いただいた方々、手記を執筆いただいた方々、資料提供、編集に御協力くださいましたすべての方々に、心から感謝申し上げます。

ヒトは「万物の霊長」といわれます。「霊長」とは他よりも最も優れているという意味です。ヒトという生物が他の動物と異なるのは、その知能であるとされます。頭脳が発達した人類は、言語を持ち、社会を形成し、その暮らしをよりよくすることを目指して、歴史を重ねてきました。

一方で「人類の歴史は戦争の歴史である」ともいわれます。地球が誕生してからの46億年を1年に例えると、現在の人類（ホモ・サピエンス）が誕生したといわれる20万年前は12月31日午後11時37分に当たりますが、その後のわずか23分の間に、ヒトという動物は、互いを傷つけあう争いを繰り返してきました。

なぜ戦争が繰り返され、多くの人々が傷つけあってきたのでしょうか。争いをなくすにはどうすれば良いのでしょうか。その答えはいまだに見つかっていません。一ついえることは、私たちが戦争の時代を知り、その時代の人々の考えや行動を知って、戦争について考え、自由闊達に議論し続けていくことが、答えに近づく第一歩だということです。

ある戦争体験者がこのようなことをおっしゃったことがあります。「戦争体験は1センチ隣にいたら全く違うものになる。十人十色、百人いれば百人違う。体験者の話を一から十までそのまま信じてはいけない」この冊子には、戦争の時代を体験された方々のお話が多数収録されています。当然のことながら、すべて異なる体験で、70年後のこんにち、戦

争をどのように捉えているかも一人ひとりお考えが異なります。どの話

が他より重要である、といった軽重はありません。また、これらの方々は、当時たくさんの人に囲まれて暮らしていたはずで、その方々の中にも、別の機会に話を残されている方もいらっしゃるでしょうし、残す機会がなかったという方もいらっしゃるでしょう。いまだに黙して語らない方もいらっしゃるでしょう。戦争で亡くなられた方にはもちろん語る機会はありませんでした。そういった無数の人々の中の、わずか一握りの体験談がここに集まっているということも同時に想起する想像力を忘れずに、この冊子を手にしてほしいと思います。特に今回は戦後70年を機に編集されたものであり、1945年当時10歳の少年少女でも現在80歳、20歳であれば90歳ということになります。内容については、激しい戦闘を経験した軍隊の経験談などはくわすかで、「銃後」が中心となっています。戦争の中心にいた人々の声はもう聞くことができない、というように考えることもできますが、今まであまり語られてこなかった世代の声がたくさん聞ける時代の冊子である、と考えることもできます。

ここにあるたくさんの方々の人生の先輩方の声を聞き、皆さん自身が具体的に戦時下のことを考え、想像してみてください。自分ならどうするか、何ができたか。今何ができるかと。それが歴史に学ぶということであり、「戦争体験を継承する」ことにほかならないと思います。

凡例

本書に収録した体験記は、子どもから大人まで幅広い年代の読み手にとって分かりやすいよう、次のような方針で編集・作成しました。

1 インタビューについて

港区の高校生及び大学生によるインタビュー形式で聴き取りを行い、主旨をまとめ文章にしています。□語体でのインタビュー内容を文章化した際、分かりにくいものは、表現を一部修正しました。

2 手記について

投稿いただいた原稿は、原則として原文を尊重しましたが、紙面の都合により、本人の了解を得ながら表記の修正をしたものや原文の一部のみの掲載としたものがあります。

3 共通項目

①漢字は、原則として常用漢字を用いましたが、固有名詞など、一部常用漢字表にない漢字も用いています。なお、小学校学習指導要領における学年別漢字配当表において6年生以降に学習する漢字が含まれる語句には、ふりがなをふっています（原則、章ごとの初出のみ）。

②口述内容・原文の尊重を原則としていますが、現在あまり使用されていない言葉は、言い換えを行っています。ただし言い換えが困難なもの、または言い換えると意味や語り手のニュアンスが伝わらないものは、そのまま使用しています。

③本書の目的は、当時の個人の戦争・戦災体験談を読み手に伝えることです。史実についてはできる限り配慮しましたが、一部事実確認ができない事象・内容も、体験者の記憶を尊重し、そのまま掲載しています。

④当時使用されていた言葉で、現在では不適切と思われるものについては、口述内容・原文尊重を原則とし、そのまま掲載しているものがあります。

⑤戦争体験者及びインタビューアの年齢は、原則、平成28年3月31日時点のものです。

平和の願いをこめて
2016

— 今、語り継ぐ 戦争の体験 —
港区戦争・戦災体験集 第3集

目次

港区平和都市宣言	3
港区戦争・戦災体験集（第3集）の発行にあたって	5
監修にあたって	6
凡例	7



提供：浜野豊吉氏

第1部

特集 HISTORY 港区と戦争

年表 近代の戦争と港区

1 軍都としての港区

日本の近代化と戦争	16
港区と軍隊	17
column コラム 旧乃木邸／二・二六事件と港区	20

2 動員される若者たち

日本の軍隊 徴兵と階級	21
日中戦争から太平洋戦争へ	23
column コラム 港区と学徒出陣	24

3 港区と空襲

本土空襲の拡大	25
港区の空襲	27
港区 太平洋戦争中の空襲による焼失及び建物疎開区域図	30

4 戦時中の暮らし

国民の総動員へ	32
統制される衣・食・住	34
column コラム 港区に残された当時の使用品	36

5 戦争と子ども・女性

勤労働員と学童疎開	37
column コラム 戦前の学制	39
港区における勤労働員・学童疎開	40
戦時下の女性たち	44

6 終戦と復興

終戦と占領統治	46
港区の戦後復興	49
column コラム 港区と「終戦」	51

第2部

VOICES 戦争体験の記録

1 軍人・軍属

INTERVIEW インタビュー	
浜野豊吉さん	56
MEMORIES 手記	
南方にて 北山文司さん	66
平和に感謝 西村米子さん	66

2 外地

INTERVIEW インタビュー	
山田寿則さん	68
MEMORIES 手記	
引き揚げ時の体験 山下民子さん	78
私の体験 匿名希望	79

3 銃後

INTERVIEW インタビュー	
小柴恭男さん	80
佐々木光子さん	90
岩垂広子さん	100

4 空襲

MEMORIES 手記	
麻布谷町にて 安藤重男さん	110
僕の小学校5年生 岡田榮さん	111
戦時下の小中学生と港区内での空襲体験 小嶋康男さん	111
欲しがりません 勝つまでは 鈴木和子さん	113
私の体験した太平洋戦争悲劇 鈴木稔さん	115
幾代も暮らす町におなじい戦争があった 松岡広恵さん	116

INTERVIEW インタビュー

上松洋子さん	118
沢田久次さん	128
MEMORIES 手記	
私の戦争体験 鶴飼良彦さん	138
私の空襲体験 小出千代子さん	139
大空襲 椎名武司さん	140
港区での空襲体験 杉山晁さん	141
麻布十番の空襲前後断 早川福一郎さん	142
昭和19年8月〜20年3月の芝区 松尾正恵さん	143
三月十日 松苗政一さん	145
真つ赤な空 村井恵美子さん	148
地方での空襲体験 匿名希望	148

5 疎開

INTERVIEW インタビュー

松宮秀好さん

田舎への疎開を通して感じた戦争とは？
子どもの目にも 日本の敗色は濃厚だった。

150

飯塚義一さん・篠倉正信さん・八木達也さん

食糧難、物資不足の日々を
子どもたちと懸命に生き抜きました。

160

MEMORIES 手記

私の疎開体験 鶴飼るり子さん

集団学童疎開 田口一男さん

東京大空襲から玉音放送まで
～昭和20年3月10日から8月31日まで～

法木義幸さん

170 171 172

6 原爆

INTERVIEW インタビュー

石川達一さん

戦争に道徳はない。次に戦争が起きたら、
核兵器で人類は終わるでしょう。

174

MEMORIES 手記

あと10日早ければ…… 鈴木徳子さん

広島に原子爆弾が投下され母と死別 母をかせせ！ 高木恭之さん

184 185

巻末

港区平和都市宣言 30周年の記録

196

用語解説

202

7 戦後

MEMORIES 手記

私は海軍の通信兵でした 佐藤良雄さん

あのころ、あれこれ（昭和22～25年）～中学生時代～ 杉山忠男さん

186 186

インタビューを終えて

190

1	戦時中の雑誌	59
2	特攻	63
3	玉音放送	64
4	日本の朝鮮統治	71
5	ソ連の参戦	74
6	38度線	76
7	軍歌	85
8	傷痍軍人	89
9	当時の物価・給料	93
10	強制疎開	94
11	防空壕	97
12	徴兵猶予と学徒出陣	103
13	戦時中のスローガン	104
14	配給制（配給制度）	107
15	南京陥落	121
16	九軍神	123
17	戦時中の衣服	131
18	空襲警報	133
19	焼夷弾	135
20	憲兵隊	155
21	疎開	157
22	金属供出（金属類回収令）	158
23	進駐軍	163
24	戦時疎開学園	165
25	ボツダム宣言	166
26	戦後の教育の変化	166
27	広島と原爆	177
28	長崎と原爆	178
29	原爆による被害	180